

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針3

地域資源を活用し 市民協働による
いつまでも住み続けたいと思う地域
づくりを進めます

～白山文化の里「しろとり」～

事業年度	令和5年度
責任部長	白鳥振興事務所長
責任課長	白鳥振興課長
責 任 課	白鳥振興課
主管課・関係課	白鳥振興課、建設総務課、総務課、観光課、社会教育課、学校教育課、商工課、高齢福祉課、政策推進課

■施策の概要

施策1:道路網の有効活用によるまちづくり

【主管課:白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域は、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道が接続し、一般道では岐阜方面と富山方面を結ぶ国道156号と福井方面と松本方面を結ぶ国道158号が貫通する交通の結節点となっています。令和5年度には、中部縦貫自動車道が勝原ICから九頭竜ICまで開通し、更に令和8年春には和泉・油坂区間が開通予定であり、北陸方面からの交流人口や物流の更なる増加が見込まれます。これらの道路網整備を見越して、防災物流拠点施設の設置・活用や観光客の集客につながる取り組みを推進します。あわせて、白鳥地域の広域防災拠点に指定されている郡上市合併記念公園へのアクセス道と周辺の市道の整備・改良を進め、防災機能の向上を図ります。

施策2:白山文化を活用した市民協働による地域の魅力向上

【主管課:白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域には、白山信仰に関する歴史文化や白鳥おどり等の伝統芸能等、地域資源が多くあります。しかし、その魅力を十分に活かしきれず、観光客等の増加につながっていません。そのため、住民自らが地域資源の魅力を理解し、愛着を深め、その魅力を発信していく取り組みが必要となっています。また、地域を代表する伝統芸能である白鳥おどりは、担い手の高齢化に加え、踊り客が会場で快適に過ごすための環境の充実が求められています。今後は、住民が地域資源を学び、その魅力を広く発信するとともに、次世代へ継承する活動を推進します。

施策3:コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり

【主管課:白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域では、18の自治会それぞれが特色あるコミュニティ活動を行っていますが、人口減少や少子高齢化による活動の停滞や地域防犯力の低下などが危惧されています。このため、これまで以上に地域住民のつながりを深め、交流を活性化する取り組みや、地域づくりの担い手の確保が必要となります。若い世代の人材育成の取り組みや、高齢者が健康で生きがいを持ち、いきいきとした暮らしのできる環境を整えるとともに、全世代による交流の場づくりや地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

■基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長:白鳥振興事務所長】

令和8年に予定されている中部縦貫自動車道の福井ー白鳥間の開通により、中部縦貫・東海北陸の両自動車道が接続し、白鳥地域は両自動車道の結節点となる。これによる将来的な物流及び交流人口の増加を見据え、この地の利を活かすべく、令和5年度に実施した白鳥振興プロジェクト事業において、2033年(10年後)の白鳥町における地域の産業観光振興に向けたビジョンとロードマップ、そして、そのビジョンを実現するためのアクションプランを提案書としてまとめた。今後はこの成果を引継ぎ、エリアの中核拠点と位置づけた「道の駅清流の里しろとり」と、周辺の2つの道の駅とを連携して機能を強化していくとともに、道の駅の販売力を生かした地産地消のエコシステム形成、コンテンツ開発、プロモーション、エリアマネジメント、空き家利活用、インバウンド誘客や文化・自然資源の利活用等への取り組みを進めていく。

また、白鳥地域には北部地域に拓かれたかつての白山信仰の登拝路と、その美濃側の拠点となった長滝白山神社の他、清流長良川あゆパーク、コロナ禍でのアウトドア志向の高まりによるキャンプ場のオープン等、数多くの地域資源や観光資源が存在しているが、相互の施設の連携がなされていないため、観光客の周遊が図られていない現状である。このため、各施設のPRや周遊コースの提案等を一元的に行う組織の構築を検討している。令和3年には市民ボランティア「白鳥観光ガイドの会」の設立による長滝白山神社の観光ガイドが開始され、令和4年度は市内外の7団体、令和5年度は4団体の利用があった。令和5年度には道の駅「清流の里しろとり」2階に白鳥おどりの体験ブースを設置し、国内観光客だけではなく国外からのインバウンドの観光客も積極的誘致に取り組むことで、今後一層のPR活動とともに、ガイドの養成や資質向上等の支援を行い、観光振興、地域振興を図る必要がある。

■施策ごとの評価

施策1：道路網の有効活用によるまちづくり

【主管課：白鳥振興事務所 振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・交流人口の減少と経済活動の縮小
- ・広域交通の要衝であるが、道路網の発達により観光客や物流の通過点となるおそれ

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

道路網整備や防災物流拠点が設置され「人」と「モノ」の交流が拡大することによる活力あふれるまち

I 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の今後の整備拡張計画を踏まえ、令和3年度から実施した両道路の結節点となる白鳥IC周辺の将来的な可能性についての調査結果をもとに、令和5年度は「人」と「モノ」の交流の拡大を見据えた地域の戦略的な観光振興を目的とする白鳥振興プロジェクト事業に着手した。岐阜市の「カンダまちおこし株式会社」からコーディネーターを招き、年間で14回の委員会を開催。令和8年の中部縦貫自動車道の開通に向け、道の駅や観光施設等の連携と活用について協議し、協議内容を「白鳥の観光振興に向けた提案書」「観光地域づくりに向けた宿泊機能強化の提案」にまとめ、10年後の白鳥地域の観光の「ありたい姿」と、それを実現するためのアクションプランを作成、今後想定される観光客の増加と多様化するニーズに応えるための、地域の宿泊機能向上に向けた方策について検討を行った。

【課題】

2本の高規格幹線道路の結節点という利点はあるものの、降雪・積雪のリスクが物流業務には不利な要素であることから、両自動車道の結節点により増加が見込まれる交流人口と物流を通過点とならないよう白鳥に留め、地域の特色を活かした観光に結びつけて、活性化に繋げていく必要がある。

そのためには、地域内3つの道の駅を連携・活用しつつ、地産地消のエコシステム形成、コンテンツ開発、プロモーション、エリアマネジメント、インバウンド誘客や文化・自然資源の利活用等への取り組みとともに、観光客の増加と多様化するニーズに応えるための新たな宿泊施設の開発と、既存の宿泊施設に対する再投資を促すことが必要である。

II. 今後の方向性と具体的な展開

令和5年度に実施した白鳥振興プロジェクト事業で策定したビジョンとアクションプランを引継ぎ、白鳥地域内の産業振興を牽引する観光・産業事業者間、官民が連携した体制づくりとツーリズムを通じた地域内経済循環構造の創出、及びそれらを活かした地域の魅力を周知する中核拠点づくりを通して、白鳥地域の持続的発展に繋げる事業を推進する「リーダー的人材の育成」と「官民の縦横連携」、「プロモーション」の体制づくりに取り組む。

施策2：白山文化を活用した市民協働による地域の魅力向上

【主管課：白鳥振興事務所 振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・住民の白山文化をはじめとする地域資源の認識、情報の発信不足
- ・白鳥おどりの担い手の高齢化と踊り会場の環境整備

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

白山文化や伝統芸能が守り伝えられ、住民が誇りをもって住み続けられるまち

I 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

令和元年度からの白鳥町北部地域振興の取り組みは、白山の信仰・歴史・文化に関する資源が多く残る白鳥町長滝地区の長滝白山神社から前谷地区の阿弥陀ヶ滝、石徹白地区の白山中居神社・いとしろ大杉を結ぶ地域を中心に、地域周遊の普及と地域資源の活用を目指して進めてきた。

令和2年度に白山周遊パンフレット「くくるをめぐる」を刊行、令和3年から4年度にかけてはパンフレットを基にしたWebサイトの製作と公開、令和5年度にはWebサイトへの誘導を盛り込んだパンフレットの増刷を実施した。

また、白山周遊のエントリー施設となる白山文化博物館でも企画展を開催(期間中入館者数3,208人)するなど、白山文化及び地域の魅力をより広く周知するための事業を実施してきた。

地域や民間の関連組織との協力として、令和3年に発足した「白鳥観光ガイドの会」では、令和5年度事業として年1回の観光ガイド研修会、年3回の座学による学習会、外部講師を招いての公開講座を2回開催し、市内外の4団体からの依頼を受けガイドを行った。

白鳥おどりに関しては、令和5年は新型コロナウイルス感染症が収束したことに伴い、3年ぶりに通常の開催ができ、21日間で約30,500人(前年より14,500人増)の来場者があった。また、おはやし講座やおどり講習会により、新たなおどりファンや次世代の担い手の獲得や育成も継続して注力している。

【課題】

従来より進めている白山文化を活用したPRに加え、世界農業遺産である「清流長良川の鮎」、白山ユネスコエコパークの白鳥エリアといった世界的にも認められた地域となっている点を踏まえ、白山文化博物館、白山瀧宝殿などの拠点施設での情報の発信等の有効な活用を図りつつ、地域内の関連スポットや施設と連携しながら地域の活性化につながるPR方法の検討が必要である。

また、当地へ来訪した人たちが気軽に白山文化に触れてもらえるよう、エントリー施設となる白山文化博物館の一部改修の検討が必要である。

今後は新型コロナウイルス感染症の収束により観光客の増加が見込まれ、また、円安の要因も加わりインバウンドによる海外からの観光客が増加してくることを考えると、観光ガイド等の人材育成などの受け入れ態勢を整えることが急務である。

白鳥おどりについては、若い世代にも浸透しつつあると感じるが、新しい担い手の育成が急務である。またおどり会場によっては、トイレが離れた場所にしかない等の課題がある。

II. 今後の方向性と具体的な展開

増刷した総合パンフレット「くくるをめぐる」と関連するイメージ動画、Webサイトをより一層活用することで、実際に現地を訪れた人が現地での旅をより楽しめるような仕掛けや環境整備を進める。

新型コロナウイルス感染症が収束や、円安によるインバウンド等により、今後観光客の増加が見込まれるため、地域や民間の関連組織との協力関係の構築を進めながら地域全体を案内できるガイド団体の養成や、地域の特色・文化を活かした飲食物・商品のブランド化、ツアーの実証実験等による現地へ訪れてからの体験等を通じ、北部地域の魅力を高める。

白鳥おどりについては、白鳥小学校にはお囃子クラブがあるが、中高生の人材育成の場がないため、クラブ等創設の検討を進め、新たなおどりファンと次世代の担い手の獲得を図るとともに、おどり会場のより一層の環境整備を進める。

施策3:コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり		【主管課:白鳥振興事務所 振興課】
評価	B	目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。
▶後期基本計画策定時の「現状と課題」 ・地域づくりの担い手不足 ・高齢化や人口減少によるコミュニティ活動の停滞		◎後期基本計画策定時の「目指す姿」 地域運営組織が確立され、地域づくりの担い手が活躍し、住民同士が支え合うまち
I 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)		
【成果】 令和4年度は「全世代による交流の場づくり」の実現を目指すため、世代や市域ごとにサロン活動を行っている11団体のネットワーク化を図り、取り組みを紹介するためのホームページの開設や情報誌の発行、世代や地域を超えたイベントを開催し、令和5年度も引き続き情報誌の発行や講演会等(160名参加)のイベントを開催した。また、地域づくりの一環として、白鳥ビジョンの作成を目的に、令和4年度に第1回HUB白鳥サミットを開催し令和5年度に3回開催予定だったが1回のみで開催となった為、白鳥地域1,000人を対象にアンケート調査を実施し結果をまとめた。 【課題】 コロナ禍に閉じこもりがちだった高齢者に対し、交流の場を提供したり、安心してサロン活動に参加できる環境を整備する等より一層の支援が必要である。また、イベント等の活動に関わる市民や団体の広がりが少ないなど、人づくりや意識改革の推進も課題である。		
II.今後の方向性と具体的な展開		
サロン活動のネットワーク化を今後も推進し、「全世代による交流の場づくり」の拡大を進め、互いに顔の見える関係性を構築するとともに、地域での居場所づくりの創出を図り、支え合う仕組みづくりを目指すと共に、地域課題解決等についての協議、活動を行うよう事務局がコーディネートしていく。		

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等
・ ・

■関連する個別計画の有無	
無	